

林惱煩透

春のお彼岸

結願法要

左記のとおり秋季彼岸会総供養法要をお勤めいたします。

この度の法要は時節柄二十五名定員とし、事前予約制といたします。

三月二十三日（火）

午前十一時半より

*法話 西原祐治師

*衆僧総供養読経

*三月十七日から二十三日までお彼岸で

す。この期間お寺もしくはご自宅での読経供養を致します。ご希望の方は必ずご予約ください。

*新型コロナウイルスの影響により密を避けるため期間中お寺、ご自宅での読経供養はすべて予約制といたします。ご了承ください。

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間中なるべくお参り下さい

予約電話

午前九時から午後五時まで

03-3996-2064

それ以外の時間

080-5464-9136

お彼岸の寺報なのでお彼岸らしい内容の事を書こうと思おうと途端に悩みそが固まってしまい何も書けなくなってしまう。「忙しかしかったから」「コロナだから」「インプットが足りてない」「順正寺ラヂオや YouTube でネタ出し尽くしたから」書けない言い訳は沢山出てきます。要するに出たとこ勝負の帳尻合わせの限界が露呈したに過ぎない。まるでここ何年かの政権のようです。にも拘らず中身のある振りをしようなんておこがましい事を考えるから止まってしまおうのだなきつと。

だから中身なんてないぜ！といつものスタンスに戻ってみる。

さて、書けない理由の一つに挙げた「コロナウイルス」は感染の終息は見えず私たちの日常を脅かしています。その中で「with コロナ」と云う言葉を目にしたり聞いたります。簡単に言えば「コロナウイルスとの共生」という事でしょう。「共生」という言葉は昔からありますが特にグローバルリズムが進む中で注目されるキーワードとなったようです。最初は、なるほど大事だね、できたら素晴らしいねと簡単に考えていました。が実際に実現しようと思おうととても難しいことです。例えば異なる文化、生活習慣を持つ人との「共生」大きなところでは迷惑だと盛んにワイドショーで騒いでいた外国人労働者や観光客への偏見。喫緊なところでは夫婦間、嫁姑問題など枚挙にいとまがありません。なぜこんなに難しいのか。これは誰もが自分を正しい物差しとして自分以外を見るからだ。だと仏教は

看破します。要するに自分の物差しに合うか妥協できる範囲ならば共生できるが合わなければ出来ないという事です。しかし仏教はさらに教えます。実はあなたがどう思おうともすでに「共生」しているのだと。自分の都合という極めて限定的な小さな視点からは見えなくて不利益に思えてもそれによって今のあなたは成り立っているのだと厳しく問いかけます。

これは娘が教えてくれたことですが「チームラボ」という空間や人を研究しそれを光や音、遊びの場、エンターテインメントとして表現している会社があり、その作品の一つに他人が入ってこないと成り立たない空間があるそうです。これは自分以外の人の周りで光や音が反応してそれを見て楽しめるというもので発想のものは、東京は特にそうですが人口密集地では他人が鬱陶しく思えて「煩わしい」となりがちですが実は他者がいて初めて成り立っていることを遊びを通して知らせようという事らしいのです。私自身人混みは苦手ですし勝手気ままに一人でいることが好きなのでつい「煩わしい」と感じてしまいました。ですが実はその大勢の人がいて私は成り立っているのです。その現実を知らず知っても尚受け入れられないのが頑固な私です。「コロナウイルス」もすでに「共生」しています。あとは「私」がその現実を受け入れられるかどうか。自分の課題です。還暦を迎え身も心も益々頑固になっていく今日この頃ですが柔軟体操でもしてみるかな。

住職

法要で婦人会のみなさんが心を込めて作ってくださる美味しいお斎（おとき）が出せなくなつて丸一年が経とうとしています。早く再開できたらな、と、毎回、住職と、「今回はどうする？」と探っています。やれるものなら、やはりみなさんが談笑しながらお食事をしている姿を見たいなど。

最近気づいたのですが、どうも、人が幸せそうな顔で食事をしているのを見るのが好きようです。美味しそうに、幸せそうに食事をしている人を、嫌な顔させるようなことを言ったり、怒ったり、泣かせたりを見ると、飯のときくらいは、やめておいてよ、と思えるのですよ。見る機会がないからこそその気づきです。婦人会自体は、最初の緊急事態宣言下の数回お休みをさせていただきましたが、現在では毎月開催させていた দিয়েおります（他の定例会も）。やはり、顔を合わせでお話をするだけで、気もちは和らぐものですね。

仕事で、インターネットを使ったオンライン会議というのにも参加をしましたが、どうも、話をするタイミングや、笑っているのか、突っ込んでいいのか、賛意を示しているのか、量ってしまい、やりづらくてしようがない。それに、普通の会議でしたら、同時に意見を言いたしたとしても、適当にお互いの間を量り、うまい具合に譲り合えるのですが、それがうまくできない。互いに黙っちゃって、シーン……。

知らず知らずのうちに、私たちは互いの息遣いや、雰囲気や、なんだかわからないものを、同じ空間にいる時は、鈍感なわたしですら感じ取っているのだな、と、改めて感じています。人と人は、やはり「間」を生活しているんだなと。

やっぱ、同じ空間でいられることに越したことはないのです。が、ま、こうなつた以上は致し方がない。

でも、こんなことも、コロナ禍がなければ気づけなかったわけですし、頭では「独り」では生きていけないし、生きていく以上は一切のものや事象と繋がってある、なんて、地球の向こう側で起きたことであろうが他人事ではない、なんて、理屈をこねていましたが、実際にこうなると、まったくもつて他人事ではなかった自分を思い知らされています。この一年で、けっこう色々気付かされ、学ばされました。でも、その多くを忘れていきます。ここでもまた気付かされます。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」って、そんな自分だなと。皆さんは、どんな一年でしたでしょうか？

わたしにとつては、わからないことだらけの一年は、自分だけではなく、みんなが探りを入れている状態です。ごしているだけで、全てが初めてづくしで、生活の中で「？」をやたらと付けられるので、手の洗い方？うがいのしかた？マスクの必要性？に始まり、緊急事態の社会のあり方？とか、色んな所に「？」をつける、疑問符をつける、そんないい機会になっています。これでいいのかな？オレは何がしたいのかな？と。悩むくらいしかできないのですが、悩むことくらいは大切にしたいものです。

生活をしていて、わかっちゃわないで、「わかつた！」と思つたその後に、「ほんとに？」と疑問符をつけてみるだけで、「答えより過程が大事」というのが「わかつた気になれます！」ほんとに？

皆さん Clubhouse (クラブハウス) ってご存知？ナウな私
は知っています。て言うかこれ待っていた。「順正寺ライブ」
やろうにもこのご時世会場が無いし、ZOOM はフリートーク
やるにはまだまだ機能が足りてないし。でもすごい奴は居る
もんで SMS でフリートークの座談会ができるシステム作っ
てくれたんです (音声のみ)。ただ課題は誰かに招待しても
らわないと参加できないというところ。一人の会員が招待で
きるのは2名まで。なかなか敷居が高い。それでもこんな面
白そうなことができるのに黙って見過ごしているわけには
往かないので3月中には順正寺のクラブを作るつもりです。
ホームページ、facebook では随時ご案内いたしますが、こ
の寺報では4月に発送する永代経法要のご案内が初出にな
ります。どんな形するか未だ思案中ですが取り敢えず最初は
月に1回のペースで行こうと思っています。その節には是非
ご参加ください。合掌 住職

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬
儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。ま
た土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束
を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めする
ことはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、ど
うかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事

いずれもご自由にご参加下さい

聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をや
っています (1月、8月はお休み) 2時間ほど

グリーンケアの集い「微妙音」 八月お休み
毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会 (婦人会) 毎月第2木曜午後1時
お経 (正信偈) の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」

毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時
間 参加費二百円 (初回のみ別途テキスト代千円)

照久山 順正寺 東京都練馬区石神井町三十七-四

お問い合わせ。午前9時から午後5時までは

03-3999612064

それ以外の時間緊急の場合

080-5464-9136